

# 飲食・宿泊事業者等と文教経済常任委員会との 意見交換会（記録）

日時：令和4年2月25日（金）

午後1時30分～午後3時15分

場所：上越市役所木田第1庁舎第2委員会室

## 出席者

### 飲食・宿泊事業者等

上越食品衛生協会会長 高島幸生氏

上越食品衛生協会顧問 荒納正晴氏

上越食品衛生協会直江津支部長 勝島勝美氏

上越商工会議所観光サービス業部会長 山崎邦夫氏

直江津商店連合会会長 新井康祐氏

上越信用金庫融資部長 白井国敏氏

### 上越市議会

飯塚義隆議長

### 文教経済常任委員会

上野公悦委員長、石田裕一委員、ストラットン恵美子委員、鈴木めぐみ委員、

小山ようこ委員、安田佳世委員、木南和也委員

### 広報広聴委員会

山田忠晴委員（司会）、中土井かおる委員（記録）

## 1 開会の挨拶

飯塚義隆議長

## 2 テーマ説明・参加議員紹介

上野公悦委員長

「コロナ禍における地域経済の実態」

### 3 意見交換

[飲食・宿泊事業者等]

- ・ 厳しい状況が続いており、今は支援金でつないで何とかやっている。コロナが収まった後のことを心配している人も多く、支援を継続してほしい。
- ・ 直江津のまちなかの店はかつての半分くらいになり、まん延防止等重点措置のため夜はスナックの人もいなくなり、真っ暗になっている。
- ・ ハイヤーのプレミアム商品券は、運転代行を利用する人が多かったためあまり売れなかった。
- ・ 現状は、酒類を提供しておらず、午後6時半から店を開けて客は3人だけ、といった感じである。子供連れで飲食に来る人はいない。
- ・ 子どもがSNSなどでテイクアウトをPRしてくれて、15分で完売したことがある。
- ・ 子どもの感染により親の行動が制限される。子どものワクチン接種を早く実施してもらい、安心して外食や買い物ができるようにしてほしい。PCR検査とワクチン接種が最も重要である。
- ・ 卸は全く駄目。店売りも近所の人に来るが、休業して支援金をもらいたいくらいの売上げしかない。まちの雰囲気も暗くて、静かである。早くこの雰囲気が終わって、活気付いてほしい。
- ・ こういう意見交換会の開催が遅すぎる。コロナになって何年経っていると思う。
- ・ 大瀨区などの宿泊業は、目も当てられない状況である。スーパーはまあまあであるが、八百屋、魚屋なども目を当てられない。中小・零細業者は苦しい状況である。
- ・ 議員にも考えていただきたい。八百屋などにも直接、声を聴いたほうがよい。良い案があれば、補正予算を付けてほしい。
- ・ 直江津商店連合会は8つの商店街、約240店舗が加盟しているが、飲食店が多く、非常に厳しい状況である。
- ・ 議員は実際に飲食店や宿泊施設に行って現状を聞いてほしい。もっと足を運んでほしい。
- ・ 先般、直江津商店街に若い人が店舗を開業した。また、他にも新たに開業する予定がある。そのような活動を応援したいし、もっとPRして広げてほしい。
- ・ コロナで建設業や製造業に原材料不足、半導体不足の影響があったが、最近は徐々に回復している。人材不足も改善した。しかし、対面サービス業は今も業績

が大きく低迷している。

- ・金融機関の支援できるところは、資金繰りである。2年前に始まった国のゼロゼロ融資（無利子無担保融資）は需要があり、令和3年3月に取扱いが終了した。公庫のゼロゼロ融資は引き続き行っており、この融資の相談は現在落ち着いている。今は努力の中、切り崩しているのものであろうが、このまま続くと枯渇して、資金繰りに影響が出てくるおそれがある。
- ・営業事業の稼ぎが少なく、赤字であるため、補助金などの各種支援制度と切り詰めによる支出削減で事業を継続している飲食業がほとんどである。いつまで耐えられるか。これ以上続くと、事業継続は厳しい。市町村や国の支援が必要である。

[上野委員長]

- ・特別委員会等で現場に入って生の声を聞いてきたが、これほどまでに長引くと思っていなかった。意見交換会の開催が遅れたことについては、お詫び申し上げる。

[石田委員]

- ・宴会がなくなった中で、昼の弁当を作りお店に卸すという新たな取組を始めた事業者がいると聞いた。厳しい状況の中、何か新しい取組は始めたか。

[飲食・宿泊事業者等]

- ・まん延防止等重点措置が終わった後に人が出るのを待つしかないと思っている。報道機関は、危機感をあおって飲食店をいじめている。逆に、人々がまちに出てくれるようなPRや報道をしてほしい。客が来ないことには始まらない。コロナとうまく付き合っただけで人々がまちに出てくれるような施策づくりをお願いしたい。金融機関にも、やわらかい審査をお願いしたい。そうすれば、2~3年で回復できるのではないか。一人一人の努力では限界がある。

[木南委員]

- ・コロナが落ち着いた後の対策は、何がよいか。これまでにGOTOキャンペーンや商品券などの支援策があったが、これらの施策のうち効果があったものは何か。

[飲食・宿泊事業者等]

- ・プレミアム商品券は、できるものは全部やっている。ただ、商品券の手数料の負担が大きい。手数料の支援をもっと手厚くしてほしい。
- ・なおえつうみまちアートは、直江津にとっては効果的な取組だと思った。スタン

プラリーで商品券の策は効果があった。

- ・今は4人を超える人数での会食が制限されている。認証店のほうが助成金が少ないのはおかしい。
- ・プレミアム商品券をあちこちで発行しすぎていて、どこの店で使用できるか分かりにくい状況になっている。そのためか地元のスーパーで買い物に使っている人も多い。
- ・感染予防対策は完璧にやっている。安心して皆さんに出てきてもらうようPRしてほしい。

[上野委員長]

- ・今後、我々に何を求めるか。具体的な話を進めてほしい。

[飲食・宿泊事業者等]

- ・昨年、市のチャレンジ補助金を活用して、上越特産市場に出店した。キャンペーンをもっと定期的にやって、特産市場のPRをしてほしい。県外の人利用も期待している。
- ・このままでは上越の市場がなくなる可能性がある。他に吸収されるかもしれない。危機感を持ってほしい。
- ・4人を超える人数での会食は駄目という根拠がない。保健所に根拠を確認するのもよいと思う。役所の職員にはもっと飲食店を利用してほしい。
- ・マスコミが、人々にまちに出ないようにあおっている。どういうところに出てよいのか、市としての外出基準を設けてほしい。
- ・妙高市で年末に出したプレミアム商品券は、地元小店舗で使ってもらい効果があったと聞いている。
- ・議員は、まん延防止等重点措置が出されてからお店を使っているのか。自分の目で確かめることが大事である。店側は、認証店として対策をきちんととっている。大規模な宴会がなくなったり、学校給食が急に休止になることがあったりして困っている。この意見交換会の開催は遅すぎである。
- ・プレミアム商品券を使える店が限定されていて、使いづらい。市内どこでも使えるような商品券を作らないといけない。金融機関にもお願いして、手数料はかからないようにしてほしい。
- ・いろいろな商品券を出しすぎて、利用者から分かりづらくなっているため、整理する必要がある。本社が市外にある事業者も対象に加えるなど、利用しやすい商品券の仕組みを作してほしい。

[石田委員]

- ・事業者の資金繰りが厳しくなっていて、融資の返済が難しくなっているのではないか。金融機関としてはどう対応するのか。

[飲食・宿泊事業者等]

- ・事業者の要望に応じて据置期間があり、3年の据え置きを使っている人は令和5年2月頃から返済が始まる。事業者の負担が出てくることになる。返済の開始時に、回復状況を見て柔軟に扱わざるを得ないかとも考えている。
- ・自分の体は自分で守るのが基本。たまにマスクをしていない人が来店するが、マスクをするよう依頼している。
- ・上越市民としてどういう行動を取ればよいのかを示してほしい。過剰に制限するのではなく、GoToトラベルのように急激に経済を回そうとするのではなく、マスコミを使って「上越市民はこういう行動を取りましょう」と啓発してほしい。
- ・上越地域のコロナの状況について記録に残してほしい。
- ・自分も消費者の一人であり、酒も嫌いではない。自粛が続いてストレスがたまっている人もいる。
- ・コロナが落ち着いたときに、市民が安心して出かけられるような雰囲気づくりが大切である。商品券で得をした気分が飲食ができるような施策が必要だと思う。

#### 4 閉会の挨拶

上野公悦委員長